玉篇礼

ホ 2
6845

ホ2
6845

玉霰序

芸能うたうを求めるまゝに人のよろづ
乃言の葉もやうゝに花月の川のう
ハ里きぬるたとハ久米乃ぢうの山さら
にも、いとゞ河ハ右ふ同じき物うち陸
うふ心のかゝらぬおまるかるハ泊も心茂
同じうそ陸うひざ海のうゝれる船ど

歌詞文詞は条こうの結条此物語のうの結を
のごとき里と異舟乃よに言こゝろ
て一ツ松一詞も一やうあらぢさぶまく。
ちうの言葉ごの海遠者言なりてハ。
いよく言づけ言葉まの知いやし者言の
葉たいとやうあるをぐをさ海ごとうち
まじ里てよみ出る歌よもうき出る

文よも昔寄えぬたとも方言多
うつ寄るそも言の系の道ハ海
いしまこゝやそやうある古をたそ
らひまのぶべ者まざかも今の言のや
うに心詞のさとゞ能あやし者をもえち
ゞ決て歌文のうあゞを好むハ面くへば
花鳥のなのさ十を言ゝでこれゆく

春をしまちがだいとく吾師の君ごし
ごろ此るゆ後源く欲求てさ求よハ河
の玉乃流をよつまてゆへくてにをはの
こでまを拾うめたくこ又うゆ大石よ
ちひまとくる磯の底でみあくるを忘
し山崎よくゆてふまぐうゆまぐれるを
直さをとて吉くて法ふ橋の板やの

此玉ゆうを玉よいかのわゆいをと求人ハ
ゆをとぶ名のこくたどろ求てむを拾い
ぎくゆをくて耳も心も秋の田乃おく
てゆ稲の松そくら世人ハゆぶくら乃
海のいこぐさ知いぐハせもハ高陰らが
あめまはこの浦の玉藻と此玉ゆうを
と二門の古ハふもおくふまくい浦籠波

清浅香山と父母のやうに。そは海山の
るくたゝふ波。源〳〵毎のむかゝろう
ひまなく花の色どり〳〵しきをも思ひハ
らで。筆のゆくまゝにたゞ書きつゞ
と書きつくせり。

三井高蔭

京都帝国大学図書

まぼろしの　まぼろしをこそ　おもふらめ　いにしへぬ　松を

有がゝる江戸代のそゞをハ。そゝき乗乃ゆくやうにて。若
のまぼろしのそこ〳〵。やゝく〳〵ふるゝときゆるゝ。ふるひあるに。
ぼろ〳〵ぐ〳〵江戸。嘆ゝぬよの人のいぎゝあさこゝるを。そをい
うあるなるや。高城も文をも。古社をばよゝ色見ぞて。ぐち
かき世の人乃祖きるふのゝかゞ〳〵ひゝ〳〵ぐ〳〵ぐ。そもく迫
きよの人のかの世ゝをハ。古ゝりふへをやゝるゞうや。よゝ〳〵む
ふへゝよゝあゝきゝ江よゝ。ゝ江ゝまへゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
るふゝゝゝゝなゝ。みゝゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

よかりし歌詞、えもいはぬ心ばえなどいとゞ世ふりて、
ちゞまりゆくことのゝ、ゝ、ゝ、

歌の部目録

みの部
ふ 六のひら
伊の部の下ふやりをおくる 同
ろ 五のひら
ほ 同
ほ 同
ほ 同

そがれある　同　五一のひら
そばうみ　同
四つの海　同
そそと　五二のひら
座の面　同
うばそ　同
ほうそう火　五三のひら
ちひようほう　五四のひら
義経　同
もうし　五五ひら
秋よちひ　光やいく
ちぐ形る　五一のひら
天が下　同
おし風　同
生りせ　座りせ　同
みぎり　同
しこさち　同
夢をむうふる　同
中に　同
今もかも　ふもかる　同
夢やきぬらん　同
ちもかまいる　同

みゝいふ何を　同
嵐のいひうまし　同
りゞ鈴りわ句　同
いやしきる句　五九のひら
文の何を　同
文の何を　同
そ年　五二のひら
りのかし　同
菜がうる　五三のひら
人の名を指ていふ　同
菜形ある菜　五五のひら
大君　同
ふゝ何を　五六のひら
文の何を　同
文の何を　同
ふてゝ　同
二つの年　三つの年　同
おの年菜　同
菜形ある者　五四のひら
文かき　文ぞち　同
かゝと　五六ひら

[illegible] 同
[illegible] 同
あそぶ
川をこえ 同
[illegible] 四九のひら
[illegible] 四十四ページ
きこゆ 同
[illegible] 四十二のひら
[illegible] つらなる 同
[illegible] 同
[illegible] 四十五のひら
[illegible] 四七のひら
[illegible] むさし 同
[illegible] 同
笑ひ 同
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 四十一のひら
[illegible] 四十三のひら
[illegible] 四十四のひら
[illegible] 同
[illegible] 同

[illegible] 同
[illegible] 四十七のひら
[illegible] 同
[illegible] 同
[illegible] 四十六のひら
[illegible] 同
[illegible] 四十八のひら
[illegible] 四十九のひら
時代のゆりかごの河 同
[illegible] 五十一のひら

み

月雪花ハ山ざと海ベ海ベに風をいとふべし。家をおりて俗をはなれ。など
のさびしのらハ。おれきをあくいなど。独ねの事ハ。ふまぞひぬ
べし。そば近くいなど。月ゲ陽さ。山ゲ高さ。海ゲ広さ。風ゲいとさ
ふ。家ゲ主さ。俗ゲ多さ。といふことをもゆ。ハ。ひとりも。おきもこと
も同じ。近き世ハ人。此みりのつひぢをもれまへど。或ハ月雪
く。月雪きなどいふべき。不をもみぢ。いふて。多し。ゑもべし。

志

やまを。何の志りゆ。おきざるはきハ。ゆ。ゆゑ。しちりき
世ハ。ふ。道。ひる。おわくよも。うまう。道。ひきバ。

ふとき。志りゆ。優ゆ。下をひるとふ。ふ。ふきて。ゆ。こ
ちなく。ゆゆ。ゆ。ゆ。

らで。花又さを紅葉といふことなれどバやりどかるハざるし

行の数の下ふやりど仮おくるす

なふいふいづもいくしまも」ものがたりどの下にかりどをおくこつよ

ものもそハあふいづもうもも」うあどやどてつきてもおき。又中ふ河

をへどそくもおくし。その侍ぎておくかりどハ今のそふもをきく誤

係てハあきを。中ふ河をへどそくおくかりどをバ誤りてやりど仮

おくて多しとをへバいうなりてたうたうん。しのれふうたうんお

どいふべきバいうなりてふやあるん。をふやたうんおどいひ。又

いく年月をうへゆる。しものを星よりをきゆるん。おどいふべきをいく

年月をやへゆる。しものを星よりやきゆるんおどいふ。やうの数の

やゆ皆ゑむがてをし。古の寺文を見てるれまゆべし。文ゆ今の云

ふ。をもよくよみかくゆ思ひふる人も此誤りをま

ぬゆハきくかし。但し何ゆ。ぞいふぞおどぞりどをお

く所きをにをかをいふをかし。ぞの下ふいふぞやをどやりど

をおくをいるもこをハ結ひのやみふたうび。よふ思ひくいふぞよう

どいふ日ど多バ別ゆし。又いづやいふやなどやおどいふ

やを結ひをいうび。ぞやのやのやし。こをゆ思ひまがへゆ行

やを係をかを。

少くゆ上の格

をべゆを。ふ河の上の文。定まゆ格あるを。今の人乃

つきざ女ハいくみゆを。定まゆ格をハるをへど。花さきぬゆ

ひく。咲ゆるゆハいをび。数ゑ笑つゆをひて。笑つゆをハいを

ぞ。我行くとゝいひて。行くとゝいひて。又行くとゝ
□□□

かてといふべき事なり。てりぐ紙おりぎもバ後うれしく半ばうれしす
ゆうまとゝへぞ花咲て人ぞそふ。ふるといふを。ちうさに人ぞそふ
ふるといひてハ。ぐ。ぐ。此よどびえ。仏をべし。又文のハかゝる
ぞてりぐをいろつもそふていふべきことゝ多き紙。その事ゝ
いとひて。畧くて。まぐれた人乃文りおり。そハ中ゝ小紙ごと
ゝ。おき。紙後ぞどとゝんべし。必おくべき事ハ。くつまうりてもいとハ
ぞ。そもてかりもをや。

なりぐ。ゝぬ後

ゝもちかゝ。ゝ。紙を思ひそ。ぐ。ぐ。ぐ

や何のあるなどのかすはちるふをハ枯くてハそのそぬこるをる近き
世よハ代格よかくるべ上よぞのや何のてふをはなくしてきたるき
るを結てるおおきハいとくいやしぎふ称ぢをてぞ蕾なるかく
かくむ人をきハ色てよむまぢきを枯り結ふきの方ハ志し結べ
ぞおくも枯きをおくるるにきと結ぶハふぞや。そはじこるや
ん枯くるるむ例のいとみぢりし。

詞ふ三つのいひざ文ひなる

ふるハ花ふ枯くち枯ちるちきし。ちるちるし。蕾ふふる蕾
ちる蕾し。ちる枯ぶふ枯く枯ちる枯きし。あどいふとびあ或ちる枯ふ
枯へるあひし。ふふ思へる思ひし。ふふるちるちし枯どいふくく
ひたるいづとはちるも代三つのいひざるにようて。ちくるるまも

差別ありて。花ふ枯くといふちる今咲こと。枯きるといふ
いふくはじこるふて。咲て枯るて。咲しるとふ枯咲しといふハおよ咲しこる代後
ふいふ詞も。ちるとかくのやし。いづとは詞も花ふなるるへるへんはるく
べし。ちる枯ちるるといふべきふ代。枯くといふてハふ枯ふちるふ
のごくし。こるくハ枯ちる花ちるるといふちし。結ぶちくくりいふべきを。
枯ちるるちる枯しちるどいひくくハしとるへる。結ちを近世人ちる此差別を
ふ枯まへぞ。言にも文ふと枯くくとやふふいふべき系を咲るといひざる
枯とやふいふべきるるを。枯きしとふるひのとどひいづるの
詞ふもおるし。たるへバ他時ふ花の枯くちる枯ちくる
ちるといふべきを。花ちるけるちるといちるむふハ花枯く
花の咲ちる時よいふ詞心又今咲て枯る花のごと代。咲し枯ちどいふ

とをろし。そハ[illegible]とてそいふべき[illegible]。[illegible]しとてハ。おのがきし
ことを。後よいふ。[illegible]。又文よ。とゝへだ。古人のかゝ書いつる[illegible]
るをいふ。今その書その[illegible]をゝへて。き事ふつまていきむ。ハ。
[illegible]かゝる[illegible]いつるといふべく。又ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
のるをいふ。ハ[illegible]かゝし。[illegible]しといふべし。[illegible]ゝへて。古今
[illegible]序をゝへて。ゝるをきいゝんふハ。此序ハ延喜乃比代り要
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝしといふべし。又[illegible]ゝ[illegible]ハ。延喜乃
時。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]を。近き人ゝ。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
書くのかき[illegible]。文ゝと。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝへをいふ。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝし。当時のゝ[illegible]ゝバ。[illegible]人ゝいふべし。[illegible]人ゝいひ
て。[illegible]ゝ人ゝいふゝ。[illegible]。或ゝ者ゝ人のゝ[illegible]。又当時の人
ふて。今まで。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
今の人のかく文ハ。此[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

又つるゆるといふをうるふよるてハ□□
といひてよれ不もうるこ。物るふ近き云ハ人ゑ。こ見ゑのうきをゑ
らゞ。みぐりなる中に。法ゑとゝふべき成ゆるといふゑの物ふあか
きし。大ゑゑ物字ハ半ゑゞハ□つゑとゝふてゑバゑゝげるがゆくふて。
皆ゆるといつり。又ゑる或ゑゝ法といひてよれ不をも。今の人ゑく
ハゑ味をゑゝび。皆ゆるゑゝ□とゝふ。こゝ□ゝ古ハゑふんをたきて。法ゑ
ふゝ見かおて。ゑの例をゑるべきし。
□□□そひゑふ そへゑゑる
ゑゝへゑで歳ふ。おきゑひ□おきゑふるゞゝふゑ。菓のおのづゝゝおき
ゑひゝゑゝてくし。法ゑふいへゞ。菓が自身と。おきゑへ□おきゑゑる□ゞゝふゑ。
他の物の菓をおきゑゝは。ゑてゝ。ゑの物が菓を。おきゑへゑゑゑ。物ゑふ近き人ゑ。多

く此差ふ知く。そひゑ□ゝふべきゑ成。そへゑ□ひ。そふゝゝふべきゑ。りゞの
ゑゝ物バゑゑ□ゑゝふゑゝゝびれおゝ。ゝゑゝゞ。ゑゝふべきゑ。
りゞゑゑゝねバ。古人ゑゑ□そゑゑゑゑゑいへゑ。
□□□まゞひまゞふ □□□まゞへまゞふる
ゑゝへゑで菓のゑふ菓のおきまゞひ□おきまゞふ□ゞふゑ。菓の菓さ
るゞふのづゝゝ菓ゑ色ふまゞふ。□まゞへ□まゞふ成ゞふハ菓のまゞふ
ゑるゝ。ことおのづゝゝ物ゑゑゑゑゑゝゝふ物ゝゝひるやゝにふゝゑ
差ふゑゑ。物ゑふ近き人ゑ。こゑも一つふんゑて。法ゑゑおゝ。
□□かゑゑ かゝる かへ□うふる
ゑゑへバ秋乃ゑて風の吹ゝゝ。吹ゝる□ゞふゑ。おのづゝゝふかゑ
法し。吹ゝへ吹ゝ□ゑゑゑゝふハ。風を吹ゝゝゑゑし。物ふこゑゑ近き

弓人は一つのみにて、ふきかえりてといふべき歟。すぐれたるとは、ぬきかへくくといふとぞ。ひみぐりしと、風ふぬきといふべきを、すぐのさらなるき、吹いくくといふ。是も同じく自化のさびあるを、猶ぬきぐいと多し。おもきをへくにたるべし。上のそひをへよることまで、皆自化のまぢをまで、いづれも乃詞もこれまぢめきたる歟。まぢふ つよく人の得るを、二つ三つさへはたぐるし。

[illegible] 花ゆる [illegible] 花せて

[illegible] 花やら [illegible] 花して [illegible] はかのづくふ細し。花まる [illegible] 花きて はぬる

ふむるし。とをへど風ふをの時て、月のまやうなる歟。いとむふ。まや

ふ花して てといふを。ぐ月のはやふ花しるるのまをいふふて。

風のをぬ吹をしるるふはかりくびおのづくぬるるをいふ細

なるを。をを歟。ぬや。ふ花せて [illegible] といふるきはをを吹をくひて。風乃

月をはやふ花せるをふ。はるし。月を風がまや ふんせるる。はとぐひ伝方ふい

ひくくもよりはるきは。花やる花 [illegible] 花して の方。大やくにして おぐやん。花を

[illegible] 花して はる方は。花やるふはいう且どはくぐくして。おくしゆくし花方

ふ近くし。物をを近き人を。花せる花 [illegible] 花きての方歟をくぬむをる。をの

ふむむきふをとぐひてをくくぬべきし。

[illegible] ぐふ [illegible] さへ をる

[illegible] といふべき歟をを。近き人をを多くぐふ [illegible] といふこはぐふ

をを [illegible] さへ をる [illegible] をを。今の伝をふは皆おくこをて一つふ [illegible] さへといふ

[illegible] ふ [illegible] さへをは伝と思ひ。ぐぐぐふをのく雅をのやくふ仏て。共ふ雅云

をして。をを差別いるて歟をくぐくし。まづぐふはをへは伝をふ

こゝハ所〻ゝゞそゝぜそゝこゝゝとゝうゝやゝめゝ
ゝのゝうゝへゝゝゝ

侍るといふべきぞ。てとゐひとゐ侍るゐ。るがふ所をくわき侍て。てとゐ
いふべきとつくといひくハいるがふとかわし。侍るハ此事をし
ねがうらかのるをもし。又けるはあくふゐのるもおまをゐ侍
やうの所をし勇る泪心なわゐ系の也ハかいるがわし。又文ゐ。
ての言ゐをいとひて或ゐをぶき或ハつかハるどしるゐ。
ゆくふつとかし。けゐ既ハ上ゐもいつゐ。

形容

形容ハ侍ゐふ。まぐ或ゐゐとでも或ハやッゐとなどいふふゐるわう。
知る洗いよくといふまふ侍ゐふ。後のてゐそハとゐくなどゐハ色
まゐる形どいふゐ。ゐゐるゐうよれ色の。まぐこゐうへふもまるこ
ゐろゐるがいよくまるといふふ近く中ゆゐかやゐけ所ゐう侍

ぎをゐえくゐ知ゐるべし。かくていよくけゐをふ勇侍ゐもむげふ
近き所ゐけるふもいうこびやゆくもこれゐそハ中よかるこび。
近所ふいくぐゐふくゐ多くゐむゐどハ知ふ中どゐし。

いく

いくハゐ教の知まげ侍ひて問ゐの詞ゐまハ上下の紙てふを
そのゐうびゐどもゐまをゐて中むべきゐ侍ゐふ近ゐ人ゐ。ゐで多
きゐくゐ仏侍て。いくゐ中ゐ所ゐどいふをゐ所の教乃多きゐふ定めて
よむゐ。ゐがてゐ。いくゐ中ゐ所ゐいふゐ。ゐ所の教の知まどゐるをいくゐ
どうけゐふ中ゐ所ゐ。問ゐと侍ゐるをや。但し。いくゐ中ゐ所ゐとゐどいへど。ゐ
まて教の多きゐをふなるゐ。ゐといをでハゐをにき侍りがくし。
ゐを今の所ふりいふ所侍ゐてもよく分ゐくゐてどかし。ゐゐへ

で日の数をいとむふ□くらとといへば日を重ねて長きてふなる
を□とといえどもいくばくの□ふてハ□数の知れぬを疑ひてと
ふ何ゝ行くべやこゝを以てをべく□いくゝとふ言葉つひぞるを
うゝ作えらくべし。

抽

此何を古今集文「数ハ多く星のつらとなりぬれば月ハ雲まれ
ぬ思ふ人の□」此下句を借云よいへば□ひ□ぬ□ど□ぬ□でも
うゝ見まゝ又思ひあがゝ心やすゝうゝくしく思ハ□るあどい
ふ言し又秋止まつ人ハ行ぬ抽□神名月の名づし
きゝれば秋二ハ□まつ人でハ□ど□といふ言し又抽□行ぎき
ハ□なゞきハつ名をうゝ□ふ行ひ名を身をバ捨てぬ抽□此句

も□捨もせどふぬるゞゝといふ言し大ゝ言ハれ□ハ□ゝ
ハ□ゝハ□ゝ抽□を今号の人ハ□ふ□ハ□ふ□ふ□ふ
べき事を思ふ□□ひ行ぬ□ふ□ふべき事ハ□ぬ抽
□ゝといふ言ひいゝおかきハ□ゝ□ゝ行ゝ言ひ
俱ハ□ハ言し□ゝ抽□ゝハ言ゝ言ゝ言ゝ
行ゝ言ゝ言ゝ言

きえよかしとゝ思へども、つゆ思ひくきしぬき、花乃咲やらぬとゝふ事
くちけうとくまてゝ、さくこゝのかをきき、花をけやらぬゝいふ
ものゝやくゆゑもとゝそぎゝ、思ふがごとくえゆうぬやゝ、ゆきふて、やら
ぬハ皆かくのごとくゝ、物ゝを近き人ゝ、こゝろゝの数をもつて書乃き
えぬこと、花のさうぬこと、をゆゑなこゝのこゝんはゝるゝや或ハ花乃
まゞちゝでけるをちるやらぬとゝひ、月のまゞゝうぬを入やら
てゐどよもゝ数多きハ、ゑがてゝしゝて、ハ花をおくちとかしゝと形ひ、
月波ゝくへきゝとゝ形ふこゝふなるゝをや。

まてゝ

花ふちゝをゝとゝいふゝ、ちゝとくくゝ花てゝいゝくゝ、ゝと勝ゝ形きゝ、
高の方形ゝふ線をてゝとゝいふゝ、金く線てゝいゝくゝかゝとかゝゝ書きゝ、

ゝ、ゝ、ゝ、

て春雨ふりしきるといふよりはじし。物うしなひ近き人は、物をく近き人といふとかよもしき。俗言にかりかのやうにて春雨ふるるも。近き人春雨ふるるとはいふべきまがふべうべきたの方文よりきにいつるはなり。

物　舊

ちかき人ふ。物と舊とまぎれる。誤りるなかり。ふるくへで年ぬ

ぬてといふは年久しくて。舊くなりることふて。年ぬてといふと

も異なる詞なるを。ふるとを物と一つとんはしるるやへてといふべき

をすべのしるねば通りてふりてとよむことなどもしきべてぬる

くなりるるるなりでは。ふりてといひがくし。舊はなりぬるとそる

らき。物へふるるとそきて。ふりはそるるる詞しきれば

月雨などの方ふ。日数の物るるとかはていもむる日を

ふるといふるより。日を物りてといひくは日数を物るるとはなりが

るるとしべし。

うぐ

うぐなるるとは。花のちるやもた。家れ消やもき。或る人のんのうつ

ぬやもた。家ぬ消といふ詞なるを。近き人も。月日をうぐふるとそれば。

いうぐくふといふるふつるふるるし。

もるふ

近き人の方よは。もるふといふまぐれ雨ともむて多し。

そは高き男ふものぶなどいひてよなしたそなるを。多くもるふ

るといふるとは詞は。古方にもるやうばよく考へるつふべし。

むうふ

むふとハまことしく云物なれ（対カ）ふるまに用ゐてハいふまじ
こゝ物ふ近き世ハ花ゆまに月ふまに伝ふまれ〻ゆゑ見るといひ
てゝきゝをみづりにむふとよもて結ふあきハ〻ゆゑ。

いそふ

いそふ。稲うまと夢ふまに。あををふくきゝ〻ゆゑ物ふ近世
ハ。或ハ花のちるをいそふ人のとハぬをいそふ。ゆゑいふ歌をべてし
と思ふことをバ。皆いそふとよもゝ。

ものうき　こゝハ耳ぢうくしけとゞひ皆独言。抑此書ハ。ぢる但づひの誤をゝゞ

ものうきゝ。ものうしとゝ。ぢうくべき泪の格ゆゑ。独言の事まで。
ぢうくしけとゞひ皆独言。抑此書ハ。ぢる但づひの誤をゝゞ
ものうしとハ物ゝ。

ことハ後ふ思ひやりとの所いとゝいふまし此御歌ハ後撰集恋三いづるふ之うらもつてえよそうゆゝしひぐるゝ人乃なゆゝ上句ハ源氏物語の歌よりきてよそうなり此下句ハてんぢべゝおりひやるもゝく侍るきゝ所うゆゝし物るを近ふふ思ふすきゝ人のとゝまるこゝふよもゝ

ゝ

ゝ

いふとハこゝろかゝるとしるべし人の今東西もしらぬ
ものをそこなはゝいふそんはべし。おもはせて
おきて。おぬしゝ人ぶのめとといふも人を
ぬしゝは人をたのむるようにいふ人。是はなを人ぶのえうをんふこそ有を
まゝいふを。是しいふのはとハ定をて是べきぞと。おもをかをて。
はをて是をすハおきをいふ。こゝろをもはるべし。おもを今は
人ごゝろより。おむしこそ。ものをて。ものをぶとも。むハとぶ。

とをかをる

とをかをるとハつくろふ。ものはるをいふ。ものに近を
人の見おかをる代をぶよりも。曲をるをなく。正しく直きこゝろと
ものをや。ぶ。

まぐ〻おる

曲らぬ直きこゝろ。まぐ〻をといふを。俗ものをいふを。ものを文
ふ。おくハはるふをしぬるを。近ふをぶをる代をぶおう
くしむハいふぞや

そのうみ

そのかゝをハ。ふ。号おを事代いふ語の中ふ。上をうをて。式時をさ
しそいふ。何をし。ふをぶ。おを事をしふ。そのうをうをうをう
ふうくのうをおをし。時をいふし。ものを。上ふををををなくて。
しぶ。ふうく号をいふて。ふ。身体をたぶ。

天が下

むしハ天の下をのをいふを。天ぶ下をいふを。後の号おる心。

こゝにハ、ゑびすくいつぐるうりけてゐもつくるゝなどゝ、たゝかふるゝなどゝかぞ
云ふ樂乃道あるを、今のくんつぐゝ、ゑびすくるのゝいふなり。
おぞろかゝ、おくゐなん。

四つの海

八ヶ門の海といふるゝハやゝ遠くとゝ、ゑびすくたの分
文ハ、多くハ八ヶもの海ゝ、ゝいへゝ、四海ゝいふなり。
ゝいふゝし、四つの海ゝいふこゝるハ、ゝ、ゑびすくの四つあ
海ゝふ形ゝぞう。

あひ風

あひ風ハ、うしろ方より吹ある風し、船ゝ、ゝ、ゝ、ゝ行く方へ
ふく順風をいふまゝ、知べし。船ゝを梅の字などふゝ梅花乃

方ゝ吹ある風を、梅のあひ風ゝゝゝゝ

そゝゝ

そゝもハ日本紀の成勢を、室の沙考ゝ背面（ソトヒ）をいるゝ、ゝ、ゝ、ゝ
のゝ形ゝを、後世ハ外面ゝ、ゝ、ゝ、

産ものゝ

ものゝ産をしるしたるを、産の面とよみくハ面といふ
こゝ用ゐゝ又ものゝかたちてハさゝめしげなるわらと、ゝもべし。

みぎりと

ものゝ縁もなくゝ用もなきに物とよむて、通字ゝ多し。いと。

そゞろ

そゞろそハ、掘字を出て、えゝきゝ戸のほそし、ゝ物を業ゝ戸ゝをゝゝ
しゝゝ戸のこゝふよむハいゝゝこハやゝゝゝきゝゝゝ戸ゝゝゝ

いとゞ絵をバ書はてゝ門口又ゝ里の入口あゞまでゆて、遣る
かのあゝバこそ、むかふ法とハいと老書ハゝゞ書るのゝにてそ行也。
さやゝ和遣る猶ハあゝざれごゝし、顔ふ美賤迚春ゆゞ行ゝる。
漢文しをべゝ歌を漢文の格ゝ多ハゝバゝ文字はまくあを
よまぬゝおゝ、物ゝふゝこの書ゆゞもゝふゝゝハ後学ハ俗語
ふもいひ、字ふし文ゝも学のゝ和をゞも、古ハをゝく、いそぎり
ゝゝゝしはゞゝゝを和ゞゝ、筆者ハ字ふ、ふゝゝもゝふゝゝいそぎゞ
ゝもゝをゝゝゝゝゝゝゝて、そゝハ客を送り遣る事ふ和をゝゝく。
絵ゝみゝを書る歌ゝゝし、ゝゝる、ふゝの行ゝゝ、ゝゝをゝゝゝ
あゞいゝゝ、ゝゝをゞいゝゝ和をハ、俗ふゝふ男ゝを支度ゝゝゞ行ゝ和く事の
ゝゝゝゝを送ゝゝゝゝ、書はゝるゝゝをゝゝふゝゝゝハゝゝゞ。

ゝゝゝゝゝゝ書はゝる霞の衣あゞゝゝし、実ゝハ書ハ衣ゆゞゝる和
ふハゝゝゝゝ衣をゝ人の衣をゝゝふ和をゞゝゝゝ絵をゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

つぎつぎに何者とも知らぬ中とてそいへ上よりつぎつぎに
おくてからしらふぞ中といふてはかりとゝひ白はうらふ
つるも上なる句よりつぎつぎに何ものとしふてし彼の近世こゝハ
上よつぎつぎに何ものとしてぞ中ふうわきぞふるやしきあぢか
ゝくもしるいうぞいとゝ夢ぞきてゝしけり

義楽して

近き世いまぐしれ人の句ふ義楽ゝとしふ句ふ
なるとりみぢしてゝハいへど義楽よりてゝいふ例なし

今ときかと句ふもかと

こゝハ今う今日うとしふてあてからの類のかし句ハ行とも二つ
あぐゝ中句ふ何ふて句ふよりふ彼ふて知べし彼ふ

を近世ふハ今と今日とをしふまふもいとみぢりなる知ぢてし

そうし

近世人そうしとうぢしる句ふ句ふ
うしうしいこぬそうしうしぬハうしあどめ彼しとてふを
そのうくのそぢふをうぢ彼ふ句ふ近世句をきて いやし
くやなる何し

きやきやうも

かうぢ彼きふ彼ハ事ふ句ふ
とがゝあど何のえんうをぬむてハ花やまぬしん彼やき
やゝむとゝもむてゝきし句ふとらんうのきぢをゝも
うゝぬかどの人ぞむうとかゝどことぢかりけるハよくゝを

きまくつべきなどの人もをりくゝ此むねをこゝろはいふぞや。ゑハ
きふなしハ信仰ゑ。ゑがきまるといふなどのまゝ。ゑやきみりんハ。
ゑがきまとうもをゝぬといふまゝ。ゑがきまるといふべきを
を。ゑがきまるもをゝぬといひくゝ笑ひべしやハ。よく思べし。

神ホちかひ　光やをくゝ　塵よまぢる

神祇のこゝろ。擬とよみ。又光やをくゝ。藥ふまぢるなどよむこ
とハやゝ遠くよりて。者のこゝろをとべく神ホ擬といい
ゆゑハ。ほとゝふなり。そハ佛のそまして。佛を本地とし。神をハその
垂跡といふなり。神をと。ゑをもゝ佛のまゝして。偽のいひ神
をもゝ。ゑがて。時代のうれまへる時ハ。おしをべくよむて
時をつゝし。又ゑりやをくゝ。ちをふまぢるなどいふてもゝ。ゑを

老子といふかゝ。和光同塵といへるより生るゝゑなりて。
神の佛うへ。ハ。ゑをふより。ゑきて。時をこゝも佛そのゝとふ
也かゝる。倍ゑる。例の神を佛ゑして。偽のゝみそをゝゝて
時をべし。ゑをゝ。ゑをゝ。やまをだまし。むけん人をんをべし。

みとつふ　泪をゝ　四のゝふいひゝる

みゝ。堂三編。善五堂などゝ。ゑをゝ。みゝといふゝ。ゑびハ。ゑ佛
ゝにゝをいひくべきて時。ゑゆゝゝよハいひうけがゝし。みゝの
ゝふて。ハゝゝふてゝゝ。ゆゝゝゝるなどのゝ。時をゝて。ハゝゆゝゝにハ
ゝがゝし。ゑゝハゝゝるゝゝをゝて。ゑ四ハゝるゝゝこゝ
ゝへゝ。ゝふて。別ゝゝや。紙ゝ。近ゝゝハ此差別ゝく。みゝ
いふゝ。ゑゆゝゝふいひくゝハゝゝをゝ。

蛍のいひうを

蛍を不者はきふいひうくるゆくはきぬけて[illegible]
俗ちりつくまい
ちふといふ所よろしいまどと近考人の今はしつくりてつくるを
ゆ[illegible]ふ所ないしいふもいひもろはみぢりし

夕のいひうを

夕を訓よいひうくはふみぢりし左き俗まちがひのいひう夢ざ
ふせぐりしふ俗まづうひうぐまてよろハ俗まちがひのいひうけを
やゆくもおかそまてふこうよかうぬを夕とこをとハゆく
いこのしがひまバいそうはいひうくべき

りどりの句

りどりの句を古ちどりはは句沈ハりによむあとを
[illegible]

[illegible]句のはうくふあいうおのの間のをどりつるぬふかぎまるこしかろ
[illegible]もくへど茅ふしいるまバ俗塵の句よは花のいろをきくやいふ
世のうみや[illegible]ふはうや[illegible]のかとハいをでおりふあどのあし七
りどはは句も[illegible]へて色べし大方古今系よりこうと此格よ
そづまくうる京ハをうくなきは新古を系のうろふいうりて西
明道寄をどこまは犯して[illegible]ふりどはある花ろ句をおおく
よるまをしうろ近き学ふはりてハ鶴ふ系し太の格ろりをづまこう
きいとまをどうきはしをもくはきを学ふハふりどの句を七りど
ふはもはうらバ句まとよをうまへこまかまはりまどろかうぬをあ
まはうこりどはうまりどはるあぞうし又古ろ系ふ日ぐらしの明つる
をへふ日ハくまぬとありふハこ乃陰ろぞ有ろこうまうハこりど下

ある句ふつくあふぎの白りぐつまうふて三の白ハ絵ゝぐ花をべて云ゝ
と思ふとつぐく而又ハ此例多し かやうなるハとまぐハ浜の白へ
はくくとし大うとまぐつまるとハだのめくはいうおの白つの内乃を
ぐのなうふるる白ハあゝぎハ丸もひまぐきし

そそぐ

近き世の人乃ぬきてつゆふよも河ふ世をゝしたが程多ゝとを
云ゝまふ白つ花てゝふをゝ川ふいをし 考風あぐふゆゝき
といふこと 花よ一花といふこと 松柳あぐふゝぐりゝぐる
花の名ふ関をきふ名ふ名ふといふこと うふとハよゝふ射ゝる事
はゝる時ふてそいふべ色さいをでもよれ取ふこうふといつゝハをさ
をきりのし 江ゝ入ふるゝ江みをゝ江ゝあぐをゝ江をゝやうふ

何江といひゝてよゝりれゝのゝいひゝくハ世よかゝぬを
江ゝの名江ゝの流をあぐをくゝもゝて 七夕ゝ名に星合ゝ色星
の色彩をあぐよゝむを考のゝをゝ川ゝかゝぬを星やゝぐ星や
恨ゝ星やうゝき名ぐいふ星ハゝろし 彩ふ名帆ゝくと
いふていぐ名ゝくゝハいふふゝをゝいふふゝんゝ江ぐゝりハ引ゝ延ゝをと
ゝ中をハ横よ色くゝ引ゝ西よてゝいへ帆をぐのやゝふ上へゝをくゝ川ぐ
係を引ゝとハいひぐゝくゝ又帆をゝ川ぐ名ゝて名ゝ綱をゝくをいふゝそ
をもいぐ川ぐてゝを帆の風ゝをとおきて引ゝをゝ江のをゝいふべきこ
をふゝ川ゝぐ 納涼の名ふ名ゝぐをゝをゝいふ名ゝぐをゝを名ゝ涼文を取涼
をいふを涼しゝをゝる名ゝて名ゝぐゝをゝをゝいふをゝをゝる取涼こ
をゝ野ゝふ又ゝをゝくゝいふべきゝ 白きゝ江後をいふこと始め

てよみてうらんを。えづくしくるをべ。近ぞふハ人毎ふもむ
ふぐふ。いとうるはし。をべるかりやうはるハ人の一こびよをうらん
るハ。又とハよもむべきふうぐるをや。　雪はあふ。ゆくはるこびも。
耳かしるし。　鐘をきく　西をきく　松ど。そのいひざふふもて。
海文をくてとうるを。くぐふ鐘きく　西きく　あどよもハ鐘ふろ
し。　えよや　蚊のこゑ　蚊ごえ。こゑこゑいやしく　なるる　泊し。
掛衣の　ふ。　ゆ　ハ　へをといふも。ゆよかるべ。　雪といひてゆ
のうるぬ時。雪掛とよむて。古ゑ　ゆ　ぬ　泊し。　窓　風　蕭
をおく心。こゑ　ゆ　ふ　ふ　泊　ゆ　ど。近ぞふきて　ゆる　松と
掛も。或ハ松ふも掛ふもとをいふべきぞハいひざるにまう。
松も掛ふもといふふ。といふて。ふるべ又ひまて。せんかるるげ

ふきとゆ。　ちくきかやといそむしきたくとも松きば。ちくきるかや、
といふ。ゆ。せんうるる松ぞし。　右の泊ごと。ふ。ふがごとふハ。ふ。ふ。ふ
ゆ。近き雲をきて　ゆ　ゆ　ゆ

よるこゝろぶつぐることハ古きよハ例なり。君を猶も猶あるやゝ
ふかひぶかひをはを立てしそいへとなどゝ今身あるハうゝ
なほ何をふゝぶかぶつぐく所よ猶といふていやしく身ゆゝし形ごゝ
□□を事ハ今身も事ハ□□をぶ　どバうとふふハ花を見ると
といふことハ新古今ハ形ぶつるハ花でゝ花づゝる形をを近世ハ
行ゆゝみぐ見ふ多くよよむなふゝ歌ゝ第四　日ふそひてハ日ふ
えへてといつべしことそひてといふ方行きるやう形をども古
きさいつる例なり。君をへるゝとぞいつる。思ひきやといふべき歌
思ハぞよといひて思ゝ思ゝ思ゝ思ゝ思ゝ思ひきやハるはし
うゝ思ゝ思ゝ思ゝよハ今のゝゝ思ゝ異なる和をや。歌なゝ
しゝゝらせてとつぐきゝゝ二句近世人のぬゝよむゝ形ゝ。

とハ地後の河なれ共、哥ハいぐ、それぐゝぶつてよゝ出ゝゝむハ先
づゝゝゝ見ぶ猶一ゝびゝゝゆゝゝゝ

いふぞや。近くよみ出ることハいづれとうはきそと居そ。そ
まつぞ。おくと。又いふふりしろきこゝろ。何をよぶびあく。老乃ま
ふるりぬるとバかゝくふるうちくさへ。ゆゑ。ばかりゝぐ。はじ。えおぬ
しのしさえふし。いゆをんゝきゝぐうと。まてよ。ゆしくをうくぬ
ゆゝ。ぐうゝやまゝぎふりてよむをかへをぐんづきおし。

文の何をゆふよむ事

同じき雅言(ミヤビゴト)より中ゆし。文まふ関ゑゝ。ゆふハよむまゝ。ゆをしを。
ゆゝくゝだぬゝをゆ。ゆゝでいふてハ。雅言なかゝし。ゆふハよゐぬ何
ゆゝと。をべゝくゝ。ゆゝのゝをゝば。たゝのよゐ。ゆふハ。ゆゝぐき。ゑづを。ゆふ
どのゝゝゝて。ゆゝゝゝいふてハ。或をまゝ。ゆゝを。ゑゝを。ゑの。ゆゝぐて
ゆゝどやゝゝふ。ゆゝを。踊(ゆゝ)ゝてすゝどふよをてゝよゝよゝ。をゝゝ。ふゆゝ

とハをゝゝゝよゐ。ゆゝ。ゆゝ。義(ゆゝ)ゝ。ゆゝゝへゝゝいふハ。文まふハ
ゆゝのゝゝゆふよゝ。ゆふハ。ゆゝゝゝ。ゑて。ゆゝ。ゆふ。ゆゝよむハ。
近き。ゆゝのゝゝし。ゑゝゝ。ゆゝゝゝ

ぬがかかまぬきく人そとえ見れまへで先づうとも見でもや
しいふもそるいかへもぐ〜とかるいい〜。

文の部

文〜〜ふふ文〜とぐ〜るとぐ〜とぐ〜とハもでふ方れ紙〜ハ字つ今ハ
しぐ文ふ酒をるるゆを行ぐべ〜。そも〜ちうき学の人文も多も
うとふつ〜おき中に文ふふ〜ふ〜ふ〜ぐ〜つ〜おく〜〜て〜い〜〜〜
学のそ〜紙を二ぐり三ぐると酒をる中ふも。ぬがてのをかく。或ハ
かく書ふをの紙づりひをえるとる見ぬ。ふふハ今の学ハ作ぐび方ハ
ゆりふ風をるぐ。をべ〜雅言（ミヤビゴト）の語をよく見れまへふ人の。

をを〜〜ふふ形ふハいふぬやふ〜〜ふ〜〜ぬ〜ぬ〜ぬ

きこゆ。漢文の訓つきを用ひて、まぎらかしおくハ、へそぐ、えぐ
ほしきまゝぞかし。雅言（ミヤビコト）成とゝ、ばゝむよハ、ゆゝしかの漢文のゆゑ
なるべしよりハ、俗語（サトビコト）なるゝ、ひとを、ものゝ、ゆゝ、ゑん。いふこゝろ、いふこと
ふ。云ふ、ゝ、多く、ゆゝ、ゝ、ゝ、

てのとゝひがとゝふてハ和よりてがおとゝ孝くて思ひのふ
ふつうひふらき詞ある説近世人その味をとるぞるかゝがゝ法みぞ
是好ることもいうる好て。

おのゝ葉

近きころ世人文の中ふ所ふうゝ世ふ代おのゝ葉ふ所とゝ
てゝゝゝゝしごろおのゝとかくゝ文ハ名をかくゝ何ゝ所ふもいゝ二つあるべ
きをおのゝとゝいひくゝ文名をいふゝ故ふ例をきてゝしそハ清文
ふ不使葉とかくゝ好どを思ひていひをゝ考ゝ記ゝて好るべし。
ゝゝゝ世い
ゝふいゝゝ世僕文ゝてハふゝゝ世ゝをハ吾子僕ゝどいひて己ゝいふてハをきを清
世の文ふハ葉ゝゝゝもおのゝゝ葉ゝいてゝこゝ世清文ゝのようひゝそしゝ文ゝゝおのゝとゝいそで。
名をいふもつのゝとゝ好ゝきこの清ふゝ内ゝてゝし紙ゝを今の号ふハ私ふゝ抑者
ゝどのゝゝいひて。ふゝゝゝ名をいふゝてハをきハ故ゝ今ゝとのかゝゝ好ゝ。

人の名をゝてゝいふゝ。

人のゝゝゝゝ

をべて人のなをいひ出るハ或ハ某(ナニ)某(ナニ)といふ人なり或
はむかし某といひし者はかくおどかるべきを近きころの人の文
ハ某なる人なりかく某なる老のかくおどかくはなるといふ組ゝを
しき強し又もし漢文の返事の訓点ハ有某者(ナニ)と附(ク)るを又ハ
ひらく出るをもしなをなをろう漢文を物き訓点ハトイフを侵付
て有某者とよめるこゝを正しきゝ方なるを返事の人なを
ちらしらふとひて出るをかよりもむとて何モノとハ附(ク)るなるを
給ひしくハ何なるしをとうと漢文をもとかくとうと漢文の文ハさ
へ出るをかゝまでぬきとかをなるハ所ハ所ハのつゞまるの
組なるハ所の文ハ中なる人武治亟なる者なるハ所なる
人なるなる老るを官又地名をにとをなるとハひつをそハ中

ねの官ものなる人又某ハ所なる人といふをなるをかしまをべ人の
名ハ某某業業なる人紀貴之なる者なるをいつる例をもちふなし
ものいひてハ業業ハなる人業業ハなる者といふをなるをさてハなる
といふて何のようぞやいとをかしまをもちかしまをしろ返事
の人をもがうもなるふんのつゞいをみゞりなるをかへをぐ
かるうるをを

そを附る某

今号ハ人の文ハしかるべを京の人大阪の人のまゝ京なる某雑俵
なる俵某をかくハ大なるハらしかるゝをなるハなるをとをなれ
ゝなるをいひてハ他国の人乃今時京ハ雑俵ハなるやうハ
をバしををバこハ京の某雑俵の某をかくをようしをかやう乃

面をのといふまでをさなきやうゐわけとをるハ中こゝろ
但しこゝ歌よりてハ中よりこゝ面の人をも指といふまでれわと
うゝ此今ハゝで大ゝをいふなん。

友うき　友ぞち

今云人友ぞちといふをバ俗ともやうゝらし。多く友うき又
友ぞちとかく。こゝ中ゝふゝろし。たき集の相出又和俗をぞ
皆友ぞちとそいひしゝ。友うきハたとやうし。又友ぞちといふをこと
とぞうまべゝぞちといふを俗云ふぞゝしといふてをとバをこと
あくて。ゝで友のてゝふ。友ぞちとハいふべきふゝうゝ。

おかきみ

大きとハまげもとハ天皇況たまうゝて親王諸王ふゝと

ゝて皇胤ふゝて臣下の氏をゝけゝ人ふかぎりて中ゝ臣ゝ
いふ貴しといへども臣下ゝ氏をゝ人をゝ中せゝてをゝし。俗
ほを今の人の文ハゝをかゝとをがゝふゝひべき人をバみぐゝう
ふ大君とかくハゝをゝこゝき云ゝてゝゝと。

がうと

姉ぐうと君がうあどいふがうとハ俗といふてゝしとハふをも知ゝそ
をゝ俗ゝをふ和ゝあるとかをへといふをふのをつひゝ。かをよ
ゝとゝいふとハ俗ゝしゝゝ例をゝ。ゝをバまゝをゝて至ゝ方をい
ふ俗ゝ。ゝをゝふハいひぐゝ。多集ふをがゝまむゝゝるも人
の氏俗へ本ゝ。をゝ俗ゝゝゝ

がてら、物を今の人、素が作りをこへゆくとやうかくてゆくハまづ、

あれ一ツ二ツ

言の教、とゝめきこゝろの人の、一ツ二ツあゞいふを、例もてゝ、

をきゆうゝきゑがてゝし、古を一ツ二ツとゝをいへ、古を系、

序ふこの二ツハとゆるゞ、あてもゝ知べし、古を日記ふも、ゑとう

ふたゝめゆるゝゞハ今一ツあゞゝもゆるゞ、り上ゝ言といふてゝゆるて

云ゝまうゝゞゝりゝき形あゞゝハ一ツ二ツをいてゝ、物を一ツ二ツく

さゝゝもいふゑがてゝ、ハ思ふゝ、古今の序の細注ふがゝまもむく。

ふふをんてゝハゝてゝゆるゞゝ、仏ハしゞへゝ、ひをもつるゝ

ゆゝゝひかゝハ云種ゝいてゝゝ、ゝゝもゆるゞ、六首のゝてゝハゆゝゞるゝや。

みゆゝゝハ物今代をゑゑゑゝゝひを物ゝゝいふをゝゝゝとハゝゝゝゝ

ゆゝべゆゝゝゞ、ゝゝゝハ、ゝ非代のゝふゝゑをゝゝゝゝいふがゆゝるを、ゝ鄙ハ

ゆゝゝゝゝゝあゝゝて、ふゝゝも絵四ふゝゝいふをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふゝのゝゝハ別ゝゝゝゝて、ゝ鄙のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のゝゝ古事記伝ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆゝゝゝ

田舎のゝゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝるに、古人日記ふかうる人あゞ、はじめ世ゝとなるも、貴
くゝ世ゝ伝のゆちふてうりしほどといつゝ、大ゝ、ゝ、ふてん
はべし、ゝ、ゞ伝とかく田舎をいつる例ゝ、ゝ、縣のゆゝの者
きすハ古事紀伝成勢玉の伊勢ふい人。

いづる むさし

今の世の人、江戸ふゆくゝ、ゝ、武ゝいづまふまかりる、武ハむさし
ふりゝゞり、ふ、ゞかくハゝ、ゝ、江戸といふを、ゞ、伝ゝるや
うに思ひてなゝれど、地名ゝ、ゝ、ゝハいづゝ、ゝ、ゝく
江戸をゝ、ふゝ、ゞ、江戸かくゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝふ
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

人のうせし地をえんとバ、孫姫の日記のごとく、絵いてうせ、いみしれる
ごとくなるを、

川をうせ

山をこゆるといひ、川ハ渡るといふぞ、ちぐまり記る。物語今の人、孫
姫の日記などふ、某川をこゆ、某ハ海川を渡る
の人を、かち渡りとハいふ、むかしハ海川を渡る
ときハ、船ふまれ、伝ふときハ、をべくくく

ゐぶきといふて船にとべく港宮の洲ふまえて何乃を代伝ること
と此しるべいとかりしゐるべし。

いさほ

近きころ人古書ふかる功字などをいさをしとよみづりしに
文をも能かくこと侭しいさをしゐ面ぞ正しく代そをいさをしと
いふを云をきゐかして用ふいふ所のをふてそのまま能よいふ物を
いさをしとへぞ云を能ふいへをこひあるを如ひしといふ人をと
らかして用ふいふきのをとをいさをしといふをこと
日格の何し能とバ能よいふときハいさをしをいふをおどいふべきをいさをし
功といふをを云ををるをいふをこひしをるといもむる日ば
能がをしし又俗家も二代実係の中は宣命ふ見て いさをしをと。

もしかとかくこまを語をと。

ゐゐふ

ゐゐふといふを俗ゐふきふ古ふ遠ふといふを。ゐみの事を能き
ふをゐゐしいふをしし能也をつひやゐれある何をとをとへぞ伝
陸よきふふハ歩ふ武遠ふハ出来ゐしいふを成ゐゐふを来。
ゐみゐをいでこざを船どハいへぞ。武遠に来ふ武遠ふ如来をと
いふをを。ゐゐふ来つゐみふ出来つゐをとハつひゐをを船しふを
きまへ有べきし今の人を此をきまへ。みぢりふつふをり。

かいつまて

新撰てを。かいつけてといふを。後の書使みて正しき何ハあり
ざる代。近きころの人をがてりてをを雅ゐりしゐるふや知ら

○おいらと

ちゝふぬしゝ。ゑがてゝこまゝてゝハ。酒俵などゝ。ふも。有てゝ。ゐらゝ
ぞゝゝき。酒ゝ。といふまハ。ゐらゝゝ。ゐまり人ゝ。ゝふぬゝてゝ。かくゐう
ゐれゝきゝし。ゑゝてゝ。ゝで。書てゝ。ゝのゝいひてゝ。ゐれ。ゝ。書つけてゝ。い
ゐてゝ。よれ。ゐれゝ。差。ゐゐるゝ。ゐるゝを。今の人ゝ。此かいつ。ゝてを。ぬむ
ゝゝ。ゝで。書てゝ。やゝるゝ。ゐゐゝ。ゐべき。ゐれを。ゝみゝゐゐ。ゐかいつ。ゝてゝ
やゝるゝ。ゐゐかくゐゐゐ。ゝゝ。ゐれを。ゐふゝる。ゐく。笑ゆゝ。

きゝ西

人ゝ。酒ゝ。ゐれを。ゝ。西ゝ。といふゝ。ゐれ。ゝ。ゐれ。ゝ。ゐれ。

伺ふといふ伺をつかふべき文をつかふまじき文とこゝろ得ずるハ不
まじきこと也 たとへハ人に對して酌ひていふ倍の内の已ぐう
へよつまるるをふ流ていふ伺をいふ 伺をいふ 倍伺ふ意のもじをえまして よみまして ござりまし
くいふ同じ 伺ふハけ倍伺のまして といひ ござりまして といふ
ふるまり 内をバ人のものふいひや 倍文をごとハ くも 出べし
意味をいろふべし べし べしを 近世人のかく べ 伺の見れまもれく みざりふ伺
きふ べし 伺をとかくハ しもと人を 奴僕をぶ對しても 花をえまして よ
まして ござりまして といひ 文 ざり いふ伺をも 伺いそんがや
をり かゝるをや こそ あり 伺ものを 伺べし べ 伺の文をも

右のゝ伺わるべきこと 右きの倍ごとをえんべし 此伺を 人と人と倍
倍の内 おハ くつ 内ちく 言をうて 多く 方て くぐ 地の倍 人を 新
より下ざ女ある者 奴僕 ぶ對 をいふ倍 ぶハ つ もいるる
くかく よく ゝ伺 倍 言て 考 べし 祥 近世人の伺をみぐ
里に伺ることハ代々の撰集の伺書ふ ゝへる ごとくし 撰集
おおや言ふ 倍 ある里ハ 撰者 みぐ ふ對ひをりて 申 ん
ぐへを伺て 此伺をバ多くおるる ごを 古今集の伺書 おハ ち
かく 後撰集 ゝ ごを いと ゝ ゝ ち 中 ふ 撰者 集 ち 花 心
の事 伺 自撰 し ゝ 中 伺 ち ふ 此伺の多 ゝ ハ かの 集 ハ 伺 倍
撰 ゝ ゝ ぐ ゝ ゝ ふ ゝ 中 伺 ふ ハ 人 の 出て ち り ゝ る ち ぐ
を おの ゝ やぐて ち る ゝ せ ゝ ひ ぐ ち ゝ ふ や ゝ る ゝ む 心 伺 出

てたるとかしこ。又新古今集ハ。後鳥羽院みづから自撰のぢやう
なるふ。元亨釋書の説ハ。古今集ハ。ちかきよりてふぐ。ふいうてハ。やくかた
ぶくびの組づひをごとく。かくべきてしぐさきづくれ糸
ぐとの御乃まくふかくきくうとそこあるぢてみるとくのあく
の糸をなどをそこふ。ぐこふ付あるこ。一糸のうちふこをこく
なきこがうるハ。此組なきハ。ふが伝ふ組かき糸をあきてる糸。
多くうるハ。かやあふなり。又ちくでも。老人へ出て陽炎ぢさ
せくなどなるべし。古き糸ハ。大うこ付きぐちそこをてる。
今ハ号の形くひよ形づまび。古代きるうん人きこれまくあるべき
ふをふなる。

結ふ結ふ

結ふ結ふ。うくある人よつきていふ組。結ふハ。結ふ人よつきていふこ
そばし。結ふハ。結ふ。ふ。ふ。

ふうをふとかくとをうつし。えべてをゆかせみハうゆ用ふなき
ゆゆしつかうまつるをどもふをかくハをうし。ゆゆをゆかの秀しれす
をおのゆ法宮之考考ふいつう考へえべし。
つうつをつうつをつうつをつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物をたしていふ時とバ、ゆべ〳〵の例ハ引べきふかし〳〵。

ゆ

[illegible]

よりて、近きころの人、文ども、よりていふべきなど、皆ゆとかくハ、[illegible]

ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

から

古今集序に詞書ふ所よりもえいでがきはなべてようの歌
ひらがをしらびてさかとられぬ。意五ほいうはあしでおいひ
ヨくうきをもむ月の十日ひらがふくなるひらの紀貫之
ゲむをそにきみをもをはむるをひてうこ。こかうのりをおさ
ぐひのをりぐ今の人の文をまぶ必ずがといふ所しかやうの所とが
といつてもやーむりーのあおもしてしまぐ。たのよれ文よハ皆を
とらつて。御こ代今時の人をかやうの所をとをといふべきことをバをさ
きをつぐーて。皆がとのといふを。雅（ミヤビ）俗（サトビゴト）ちに近しこそ
言葉詞出。ようね。ぐの文をとつよふよくいるしこしんかふく
べーしがりぐ一つをて。大をとをき文のつよかさしをうをてこそ。

をぐがといふ詞を別ふつひぐーろいるを。ちのめくをる所よハつハ
ねをこ。このきぐめ代いをむよハいをるをもバ。りをーしつ。ちがめ
よれ文ぐとをよくえて。いぐろひ知べー。

よりとて

よりとてハ。をのをふよりをてと。上よ何ををつぐをいふをこ。河乃
頭よくぐよりとてといふこと形しをり上形る倍をバ切て。次う倍
をかりていふをきハこをふよりをしといふべー。ぬをくぐ上をりつ
づをていふ時を。日も言ぬるふよりて。ぬどりぬといふを。上を切て
いふをきハ。日をりをぬ。こをふよりてやどりぬといふーぐひを形る
を近きをりつの人を。日をりをぬ。よりてやどりぬーやーふ上乃
倍の切をーる所よ。よりてといふ。倍文ぬりの初ぐをして。倍文

の詞づひよりなづく。

ゆゑふ

ゆゑふも。よりてとはづさるゆゑ。上を切ておくていふと

きハこのゆゑふも。ちるゆゑよりたいふべし。詞のかしらふとづく

ゆゑよりとハいふべきふつうなり。古文にハ語のかしらふてハかなをといひて故字を書と。文法文よ。句のかしらふある故字ハ

昔よりかるゞゆゑふと訓。事ばりこゝをかゞゆゑふとハいふまでもきがゆゑし。若ハ法文をよむときも

そるも。倍のうらふ。ゞふゆゑよりくゞ詞のつゞひざるを。ゞてゞのゞ

ゞみゞりにそうゞぎりき。

のゝ

のゝとハ。ゞゞ。ゞ和ゞ事ゞうふしてゞおゞの物ゞの事ゞはゞゞら

ゞゞゞいふ詞ゞを。近きゞろの人乃文よハ。ゞゞゞゞゞゞゞゞゞ

倍の勢ひよのみゞいひそゞむゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ

あとし。大うゞ皇国の語よハ。さやうふのゞゞといひて。そゞむゞる倍ハ

ゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ

なゝひて。皇國の文字を。まさしといふべき事。そのうへといふ詞
そゝ絡をどと。うつゝといふて。近きころ多し。然いひてもやまる
やう所をぞと。そもそも又うけ近き所の俗文字の形を。ぞ耳
よゝそのまゝ。さべて。そのなゝひまで。やすぬてもゝ。耳形をぬまバ
さてもやまる詞ぞかし。

いやゝ

いと。きゝ。いと。つつし。あぐ。いふ。いとハつゆひやうの。ゆる詞。さまへ
ぞ。いと。ゝ。いと。かゝ。ゝ形ぐ。いふハよゝし。物を同じ詞形ゞう
そもを。いと。ゝ。いと。かゝし。ひ。といひ。ハ。ゝきし。ゝる。かゝし。ひ。
といふゝきハ。いゝ。ゝ。ゝ。ゝ形ぐ。いふし。他の詞ゝとふいふをもて
の。ゝる。ゝ形。しむ。ぐふ形。ゝ。ゝ。ゝ

のゝしりいとゝ多し。今は異ひ物ふ。こゝ二つ三つを例まつ。但し。
文よハ。さきぐ世に有て。序をゝどこゝほうふも。或ハ花酒をゝき
ゝどしゝ。をゝ。ゝ。ゝ。

ても。俗語をかくることを矣なるべし。古のをよく考へてかくべし。今の人の文をハ。ひるゝのむがしめいと多きぞかし。

俗文畑五の文

近世人の文ゑ。おとゝしの俗文のふりをぬいて。美くかきまぜあるもの。ほよう。ふるさきるぎし。そハ。雅文をえざるかゝはるさふて。つゝかをまぜ。かゝん。そこそこもきとの俗文をのゝ。の顛倒助字はふきやゝ。ゐゞ。行くゑ。ゝむつゝくとゝろきんと。俗字をまぜてハさやうはさぞ。ふもかいゝゞ。ゝゞ。俗字書にしる俗語の軍書やゝの語をえてもかゝ。ほゝゝるゞ。ゑ。ハいとしるやゝくして。俗人の耳ハ。語ゝしく。物ゝをきて。ものゝゝとゝ。ゝをえるふ。ゝ。ゝゝんぎゝゝ。ゝゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

寛政四年壬子春發行

勢州書林　松坂日野町　柏屋兵助

京都書林　二条通柳馬場東入町　林伊兵衛

寺町通四条上ル町　錢屋利兵衛

弘所

江戸　日本橋通壹丁目　須原茂兵衛

京都　寺町通四條上ル町　錢屋利兵衛

伊勢松坂　日野町　柏屋兵助